

あきのしぜんとあそぼう

【学年・教科】1学年・生活科
【単元名】あきになったね

活動の適期

- ささぶね
通年可能。遊ぶのは用水路に水が流れているとき。
- カエルつり
カエルがよく活動する時期。水田に水が入る5月頃から、9月頃まで。

活動の注意点

- 安全第一。十分な下見を。特にマムシには注意します。
- ササの葉で切り傷をすることが予想されます。
- 畦などを壊さないよう配慮して遊ぶよう指導します。
- ササやエノコログサ、カエルも命。大切に扱います。

作り方のポイント

- つくりかた③④が上手くできるかがポイント。切れ目の幅を均等にします。
- 両側がどうしてもほどけてしまう場合は、写真右の作品のように、ササの軸を差しこんでおくとよいでしょう。
- 小さ過ぎる葉や大き過ぎる葉は作りづらいので、適当な大きさの葉を確保できるか確認しておきましょう。
- ササは林縁部や明るい林床などによく生えています。地域の方はよく知っているのので聞いてみるとよいでしょう。

子どもに気づかせたい工夫

- 作りやすい葉の大きさ。
- 舟の外側を葉表にするか、葉裏にするか。葉の表側と裏側を比べた場合、表側の方が水をよくはじきます。
- 舟を浮かべる水面の位置によって、よく流れたり、とどまることがあります。
- 自分のささぶねに名前をつけてみましょう。
- ささぶねにドングリやセミの抜け殻などをのせて、飾ってみましょう。

地域の伝承野遊びを発掘してみよう

おばあちゃんやおじいちゃん、地域の人たちは、おもしろい野遊びをよく知っています。子どもたちは遊びを教わる中で、そうした人たちとのかかわりを深めていきます。家庭や地域とのつながりを大切にした学習を進めていくことができるでしょう。

また、野遊びを通して、子どもたちは地域の自然の面白さや良さに気付くことになりまふ。ふるさとせらを意識させる良い活動です。

児童用ワークシート

あきのしぜんとあそぼう

みちかなくさばなやいきものといっしょにあそんでみよう。

ささぶねであそぼう

つくりかた

- ① ササのはを 1まい よういします。
- ② はのはしを てまえに おります。
- ③ きれこみを いれます。
- ④ りょうがわを おりこんで、 できあがり。

あそびかた

- ① ささぶねを おがわや すいろに うかべて、 ながします。きょうそうしてみよう。
- ② つくりかたを くふうしてみよう。

あそんだあとで…

1. じぶんが くふうしたことを かこう。

2. ともだちの くふうで、よかったところを かこう。

ササの葉を使った遊びの例

「ササの葉キャンディー」のつくりかた

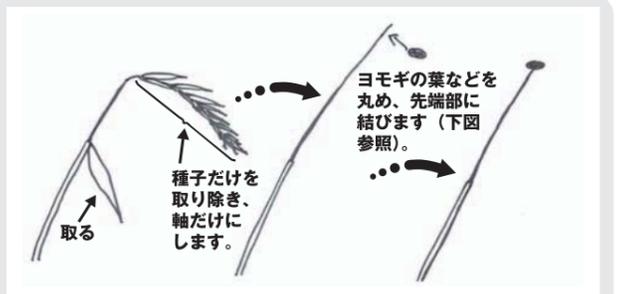


活動のねらい

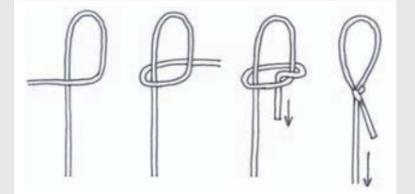
- 身近な里山で自然のものを使って、工夫をしながら遊べるようになる。
- 伝承野遊びを楽しみながら、地域の自然環境について理解する。

つりざおについて

- エノコログサがない時には、他のイネ科植物で代用することができます。
- 右図のつりざおでは、疑似餌の大きさを工夫できます。ヨモギ等を丸めた疑似餌は、右下図のように結ぶとよいです。
- カエルの大きさによって、つりざおにする植物の種類や大きさを工夫するとよいでしょう。



結び方：輪の中に疑似餌を入れて締めます。



エルつりであそぼう

つりざおのつくりかた

- ① ながめの エノコログサを 1ぼん ぬきます。
- ② ほのさきを すこしたけ のこして とります。
- ③ はを すべて とります。

あそびかた

- ① エノコログサの さきを ゆらしながら、カエルの めの まえに ちかづけると…
- ② たべようとして、カエルが とびつきます。
- ③ じょうずに やると、カエルたちが あつまってきます。

あそんだあとで…

1. じぶんが くふうしたことを かこう。

2. ともだちの くふうで、よかったところを かこう。

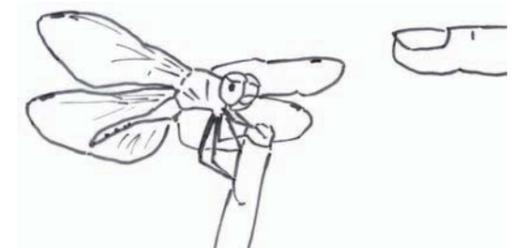
生き物遊びの例

「アカトンボ採り」

- ① とまっているアカトンボに、指をゆっくりと回しながら近づきます。
- ② 手でとれる距離まで近づいたら、すばやく捕まえます。

ポイント

- トンボ類はゆっくりとした直線的でない動きを認識しづらいため、近づくことができます。あせりは禁物です。
- 捕まえたら、左右の翅を合わせ、翅を指ではさむようにして持ちます。



カエルの習性

カエルは肉食動物。とにかく動くものに食らいつく習性があります。これを利用した遊びです。

カエルは、動くものが視野に入ると、その正面に体を向けます。獲物を両目でとらえて距離をはかります。そして、捕獲できる距離まで近づくと、大きな口を開けて跳びかかります。

カエルつりのポイント

- カエルが活発に活動する温かく湿った時に実施するとよいでしょう。
- 疑似餌の近づけ方、揺らし方を工夫します。カエルの習性を理解して、カエルの「気持ち」を想像しながら実施します。
- カエルを触る時は、カエルの皮膚の粘液を損なわないように、手を水でぬらします。また、カエルの体温は人間のより低いので、カエルが熱で弱らないように、長時間にわたって、直接手で持たないようにしましょう。